

日本声楽発声学会

学会通信

第22号

会員の皆さまへ

理事長 米山文明

学会通信第22号をお届けいたします。皆様新しい年をそれぞれいろいろなご心境で迎えられたことと思います。複雑な社会情勢で明るい希望が今なお不透明ですが、本学会運営も組織改革がもう一歩というところです。通信21号から編集、印刷などの作製を変更してきましたが、これもまだいくつかの改善すべき点があります。特に事務局と会員との連絡業務が円滑に流れない点などで皆様にご迷惑、ご不自由をおかけしているのは大変申し訳なく、おわびいたします。新事務所と事務局本部と会員の皆様との相互連絡の不具合、ホームページと会員との対応の混乱、会費納入状況の問い合わせ不備、その他、こまかい点がいくつかあります。過渡期だからという言い訳は許されませんので、可及的速やかな整備を実現します。

学会活動としましては、演奏部門が今期新しくはじめました“会員による演奏会”シリーズは大変好評です。会場の広さ、入場者人数など難しい見通しで始めましたので、皆様にはご不自由、ご迷惑をおかけしましたことは反省し、今後の課題です。演奏部門の平松英子理事が昨年11月、ジュネーブ国際コン

クール審査員として参加され、その収穫を来る5月例会で報告していただきます。会員のレベルアップにつながると思いますので。

なお、来る5月例会の「現役声楽家」のコーナーに、長年フランクフルト歌劇場で大活躍されていた吉江忠男さん（バリトン）に出演していただくことになりました。久しぶりに本格派の声を聴けるのが楽しみです。

理論部門では現在特に目立った活動はありませんが、地味な研究の積み重ねが大きな業績につながる分野ですから、今後の発展を期待します。その点で今回、5月例会の特別講演に来て頂く加我君孝東大名誉教授（脳と聴覚と発声との関連分野の権威）のお話から、いくつかの示唆を頂けるものと楽しみにしております。

★修辞学と音楽

淡野 弓子

指揮をするにも歌うにも、私が音楽修辞学のお世話にならぬ日はありません。ギリシャの哲学者たちが雄弁術を駆使して、自分の言いたいことを明確に無駄無く伝えるすべを、ルネサンス後期からバロック期にかけて作曲家たちは音楽表現の重要なツールとして用い、この時期に言葉と音楽の関係は法則的なレベルで確立したとってよいでしょう。私たちがラッソ、モンテヴェルディ、シュッツ、バッハといった名匠の楽譜を穴の開くほど見詰め、隠された意図を知りたいと願うのは、話の進め方や象徴による表現の方法を知りたいということに加えて、そこには人間の声、という自然界の一現象の秘密も解き明かされているからなのです。

さらに今あげた4人の作曲家たちが用いた言語を見ると、ラッソは羅、伊、独、仏すべてに通じ、どの言語を用いても、ネイティブの作曲家より優れた作品を遺しました。モンテヴェルディは羅、伊、シュッツは羅、伊、独で、彼がラテン語の文法によって作られていた多声作品を母国語であるドイツ語の文法による音楽に移し替えることに成功したため、その後のドイツ

はシェーンベルクに至るまで、シュッツの業績を源泉として展開し、繁栄したと言っても過言ではありません。そしてシュッツの100年後に生まれたバッハに至って言葉（ドイツ語）と音型の結びつきはマニャックと言っても良いほど凝りに凝ったものとなりました。

修辞学から学ぶことは、まずテキスト全体の語り方（弁論術）、そして一つひとつの単語やテキストの内容と調性や和声構造、旋律線やリズム、音型との結びつきです。さらに修辞学的解釈を進めて行くと、千変万化の生身の声も、ある法則の中で発せられていることに気がきます。愕然とする一方、さまざまな疑問が氷解し、解釈や演奏をさらに容易に先へ進めることが出来ます。

ここから先の声に関する問題は、歌い手とともに実際に声を用いて探る作業となります。ご興味のある方はどうぞご連絡下さい。以上お笑い草までに。

★著書案内 2冊

末 芳枝

1)

米山文明理事長著書『声の呼吸法』～美しい響きをつくる～が平凡社から出版された。声楽家にとって待ちに待った書である。発声時における体振動の方向、吸気呼気の働き、横隔膜の吸気筋のみの働きではない働き等々・・・細部に至る筋肉や骨の働き、下半身を使う必要性や頭部の共鳴腔を伴って美しい響きのある歌声となるメカニズムを明白にし、しかも理解しやすい言葉で説明されている。サーモグラフィーによる実験や音カメラによる実験で、発声時の体内の響きの動きや使われている個所の確認がなされている事も魅力である。

そして私はオーストリー国立音大発声科でカール・ハインツ・トゥットゥナー教授から伝授された訓練方法で長年訓練して来たが、その方法の一つ一つが、声楽発声に確実に必要であることをこの書を通して改めて確認出

来たのである。多くの声楽家、声楽を学ぶ人達がこの書で多くを学び疑問を解決し、大きく前進することが出来ると思う。声楽を志す人達の必携の書である。

2)

会員田中房子女史の著書『身体で覚える！自然な歌声』が、音楽の友社から出版された。自然な歌声を求めて海外に渡り、ベルギーで師を見付け、師の教えを実体験し、練習訓練思考錯誤し乍ら「声は出るもの出すものではない」の境地に達し、独自の方法を著した奮闘の記でもある。

【会員だより】

米山 文明

①本学会の平野実顧問からお便りがあり、学会への関心はあるのだが遠方で仲々上京できなくて残念であるということと、歌への楽しみは今なお続いているとの内容でした。そして新年早々のコンサート出演を請われ、1月6日（福岡／アイレフホール）、9日（広島／県民文化センター）にて、カルディオロの『カタリ、カタリ』とデ・クルティスの『忘れな草』を演奏されました。平野顧問につきましては古い会員の方々はご存知と思いますが、本学会創立時の有力メンバーで、音声言語医学分野では世界的に知られた医学者です。

近年久留米大学長を退官されるまでは医学研究、教育にご多忙のため本学会にお出かけが難しかったようです。京大医学部時代はたしか工学部の原田茂雄（前東京芸大学部長）先生と同期で合唱をやっておられたと思います。現在本学会で行っている”歌の集い”への出演をおすすめしました。遠方在住のため、実現するかどうか分かりませんが、もし実現すれば皆様にも聴いてもらえるかもしれません。

②先日スイスの Basel 大学の医師から”音カメラ”の DVD を医学部学生と音楽部（Schola Cantorum）学生の講義に使いたい旨のメール

が届きましたので、認可と資料の手配を送りました。

◆演奏会案内◆

◎ 日本311周年追思音楽会

2012年3月20日 中華民国 国家音楽廳

宮沢賢治 心を歌に乗せて

1. 精神歌
2. ポラーノの広場のうた
3. 祈り
4. 海だべがど
5. 星めぐりのうた
6. 雨ニモ負ケズ

指揮：佐々木正利

ピアノ：三上瑤子

合唱：岩手大学合唱団

グスタフ・マーラー

交響曲第2番 ハ短調『復活』

指揮：ゲアノート・シュマルプス

管弦楽：長榮交響樂團

独唱：林慈音 (Soprano)

范嬭玉 (Alto)

合唱：日本震災復興祈念合唱団

合唱音楽監督：佐々木正利

合唱指揮：佐々木直樹、齋藤佑、渡辺修身

2011年3月11日に東日本を襲った未曾有の大災害からの復興を期して、約1周年にあたる2012年3月20日に、日本の被災地の合唱団を招待してマーラーの復活交響曲を演奏し、その収益金を義捐金として被災地に送ったもので、台湾の長榮交響樂團が主催、JTの台湾支社が共催して実施された演奏会です。盛岡、仙台の被災地の合唱団が中心となり組織された合唱団で訪台しましたが、趣旨に賛同してくれた本学会会員の佐々木直樹氏(島根大学)、齋藤佑氏(鹿児島大学)、渡辺修身氏(山形

大学)がそれぞれ学生を伴って参加して下さい、北から南まで日本全国からの感動的な発信となりましたことをご報告させていただきます。

(佐々木正利)

◎ 末 芳枝 声楽研究会演奏会

4月30日(祝)午後7時開演

東京文化会館小ホール

出演者/石崎秀和、松原 進(会員)

平野 和、渡辺とも子(会員)

宮崎 歩、原田和加子

◎ 9月16日(日)午後2時開演

練馬文化センター/小ホール

曲目 モーツァルト ミサ曲ハ長調

レクイエム・ミサ

ソリスト S 大沼美恵子、A 松村桂子

T 牧野成史、 B 宝福英樹

合唱 ムジカ・サクレ・トウキョウ

オケ バッハ・アンサンブル・トコロザワ

指揮 山田 実

◎ エルヴィン・オルトナー氏による

合唱公開セミナー

4月28日(土)午後1時半開演

神奈川県立音楽堂

モデル合唱団

ヴォーカルアンサンブル・ヴィクトリア

指揮 川上勝功 他

◎ ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・

カレッジ聖歌隊の音楽監督アンドリュー・ネスシンガー氏による合唱指揮者・指導者のための公開セミナー

7月20日(金)午後6時開演

神奈川県立音楽堂

モデル合唱団

横浜雙葉学園聖歌隊

指揮 川上勝功 他

◎ ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・
カレッジ聖歌隊 演奏会
7月22日(日)午後3時開演
神奈川県立音楽堂

◎ シュトゥットガルト室内合唱団
日本特別講演2012
指揮 フリーダ・ベルニウス
♪東京公演
7月31日(火)午後7時開演
渋谷区文化総合センター大和田
さくらホール
♪横須賀公演
8月1日(水)午後3時開演
ヨコスカ・ベイサイド・ポケット
お問い合わせは、川上勝功迄。

◆お知らせ◆

・第8回国際声楽指導者会議(ICVT8)
2013年7月10日(水)～14日(日)
オーストラリア、クイーンズランド州
ブリスベン市
研究発表締め切り 2012年6月30日
詳細は www.icvt2013.com 参照
お問い合わせは、山田実迄。

・新刊紹介

「声のなんでも小事典」
(講談社・ブルーバックス) 3月新刊
和田美代子著、米山文明監修

・夏季研修会

8月16日(木)～17日(金)
東京ルーテル教会(新大久保)
・研究発表
・歌の集い
・佐々木正利理事による合唱講習会
などを予定しております。

【事務局だより】

米山理事長が巻頭にご書いておられますが、新事務所の設定を急ぎました。今迄の池袋の事務所は事務局員不在という事で、たまたま河合理事の仕事場の近くに部屋を借りて河合理事に事務局員の代わりをしていただいております。河合理事には、電話の転送を受け取っていただいたり、ファックスや郵便物の処理をしていただいたりと大活躍をしていただきました。感謝です。その後新しい事務局員に工藤真理子さんが理事会で承認されまして、今回ようやく新事務所が設定されました。会員の皆様には大変ご迷惑をおかけする事になってしまいましたが、今度は電話もファックスも郵便物も工藤さんに直接受け取っていただける事になりました。

『日本声楽発声学会事務局』の表札も出せる事となりました。今後の工藤事務局員の手腕に期待しております。

ホームページに関しましては、小川理事から最新の情報がもたらされ、費用も格安で済むとの事で、全ての条件が満たされれば間もなく新しく開設されるものと思います。乞うご期待です。それから大切な会費納入に関する事ですが、理由あってたいへん苦勞しております。次の5月例会での会計報告に関係してまいりますので何とか監査までに解決すべく努力しております。以上は現状報告です。

次に学会誌へ投稿をお待ちしております。投稿の際には研究発表規定をお読み下さい。また、学会通信にも会員各位の演奏会、出版、CD制作や近況等についてお寄せ下さい。

事務局長 川上勝功

学会通信 第22号 平成24年4月15日 日本声楽発声学会事務局 世田谷区東玉川1-1 1-26 TEL./FAX.03-3727-5822
